

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

( 月 日 曜日 )

あきらめない  
幸田小学校 五年 原みいく  
二年生の時に、棕鳩十文学記念館に行きま  
した。そこで見た一匹の犬の写真が心に残っ  
ています。それがわたしとマヤの出会いです。  
五年生になり、教科書をめくると、大造じ  
いさんとガンという物語を見つけました。  
その下にある棕鳩十という名前が目に残り  
ました。あの時のマヤの写真が目にかび、  
この本を読んでみたいと思いました。そこで  
この本を手に取りました。  
わたしが心に残っていることは、マヤが飼  
い主の元にもどってきたところです。マヤと  
同じように連れていかれた犬たちは、役所の  
人に太い棒で叩かれて死んでしまい、飼主  
の元にもどることはできませんでした。マヤ  
も叩かれてたおれました。マヤも死んじや  
ない。マヤを連れていかれまいと飼主が役  
所の人に一生けん命にうたえたい場面を  
思い出した。わたしは、切なくなりました。

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

かしまやはその晩、起き上がり飼いの元に  
もどって行きよした。っやったあわたしの  
心がさけびました。こわさにたえ、いたさに  
たえぬき生きることをあきらめながったマヤ  
のすがたに心を動かされました。  
もう一つ、心に残っていることがあります  
それは、マヤに対する飼いの思いです。他  
の飼いの主は、自分の犬をすぐに役所の人に渡  
していました。しかし彼はマヤをどうに  
かはなれはなれないですむようにと、  
彼らに必死にうたえていました。他の飼いの  
主とは愛情の与え方がちがうなあと思いまし  
た。そこから、マヤの飼いの主から、深い愛情  
を注がれていたのだなあと感じました。  
この本を読んで改めて分かったことが二つ  
あります。一つ目は、あきらめたら何もでき  
ないという事です。マヤは、飼いの元の元  
もどりたいという強い気持ちをもち続け、意  
識がもどったばかりの力のない状態の体で、  
飼いの元の元にもどるという目標を達成させま

No. 2

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

( 月 日 曜日 )

No. 3

|   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| し | た。 | わ | た | し | は | 、 | 水 | 泳 | 学 | 習 | の | 時 | に | 二 | 十 | 五 | メ | ー | ト | ル |
| を | 泳  | げ | な | く | て | 、 | あ | き | ら | め | そ | う | に | な | り | ま | し | た | 。 |   |
| た | く  | さ | ん | 練 | 習 | し | て | も | 泳 | げ | ま | せ | ん | で | し | た | 。 | け | れ |   |
| ど | 、  | 先 | 生 | の | ア | ド | バ | イ | ス | を | 思 | い | 出 | し | な | が | ら | 、 | 練 |   |
| 習 | を  | 重 | ね | ま | し | た | 。 | す | る | と | 、 | 五 | 十 | メ | ー | ト | ル | も | 泳 |   |
| げ | る  | よ | う | に | な | り | ま | し | た | 。 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 二 | つ  | 目 | は | 、 | た | れ | か | の | 愛 | 情 | が | た | れ | か | の | 力 | に | な |   |   |
| る | と  | い | う | こ | と | で | す | 。 | マ | ヤ | は | 、 | 飼 | い | 主 | の | 愛 | 情 | を |   |
| 生 | き  | る | カ | に | 変 | え | る | カ | が | あ | る | 大 | な | ん | だ | な | あ | と | 思 |   |
|   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| い | ま  | し | た | 。 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| こ | れ  | が | ら | も | 、 | あ | き | ら | め | そ | う | に | な | っ | た | ら | 、 | マ |   |   |
| ヤ | を  | 思 | い | 出 | し | て | 、 | 目 | 標 | に | 向 | か | っ | て | 最 | 後 | ま | で | あ |   |
| き | ら  | め | ず | に | が | ん | は | り | た | い | と | 思 | い | ま | す | 。 | そ | し | て |   |
| わ | た  | し | は | マ | ヤ | の | 飼 | い | 主 | の | よ | う | に | た | れ | か | の | 力 | に |   |
| な | る  | 愛 | 情 | を | 注 | げ | る | よ | う | な | 人 | に | な | り | 、 | マ | ヤ | の | よ |   |
| う | に  | 、 | 愛 | 情 | を | カ | に | 変 | え | ら | れ | る | 人 | に | な | り | た | い | で |   |
| す | 。  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)

